

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市第三小学校

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成27年4月21日（火）

3. 調査の対象

小学校第6学年，全児童

実施児童数（17人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語・算数及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、下位層よりにピークがある。上位層は少ない。
平均正答率（本校 58.4／泉佐野市 66.7／大阪府 67.6／全国 70.0）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布における本校のピークは、全国のそれよりもかなり正答数が少ない方へシフトしている。下位層の分布が多く、広い。
平均正答率（本校 56.9／泉佐野市 59.2／大阪府 62.7／全国 65.4）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>概ねできているもの、正答率が全国平均より高かったもの</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む・書く。 ・友人を家に<u>招く</u>。（下線部を漢字で書く） 問1の一の一（100.0/97.3） ・シャワーを<u>あびる</u>。（下線部の読みがなを書く） 問1の二の1（58.8/58.4）</p> <p>【読むこと】 ○登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する。 問6（70.6/67.5）</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○文の主語として適切なものを選択する。 問2の一（35.3/53.1） ○文の型として適切なものを選択する。 問2の二（52.9/71.7）</p> <p>【読むこと】 ○コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する。 問5の一（47.1/59.5） ○コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く。 問5の二（11.8/19.8） ○応募の決まりを守っていないものを選択する。 問7（53.8/73.9）</p>
国語B	特徴がみられた設問
<p>概ねできているもの、正答率が全国平均より高かったもの</p> <p>【書く能力】 ○新聞の割り付けとして適切なものを選択する。 問1の一（88.2/74.6）</p> <p>【読む能力】 ○〔ア〕に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く。 問2のア（82.4/75.5） ○〔イ〕に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く。 問2のイ（88.2/86.0）</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】【書く能力】 【読む能力】 ○声に出して読むときの工夫とその理由を書く。 問3の二（41.2/66.6） ○楽器の分担の決め方について、「楽器の分担図」を基にして書く。 問2の三（17.6/41.6） ○「文章」の要旨をまとめて書く。 問2の二（58.8/78.4） ○〈絵3〉の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する。 問3の一（47.1/60.4）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好き	58.8	61.1		2.3
国語の勉強は大切だと思う	94.1	92.0		2.1
国語の授業の内容はよく分かる	88.3	82.0	◇	6.3
読書は好き	64.7	72.8		8.1
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	88.2	88.6		0.4
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている	64.7	65.2		0.5
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している	82.3	61.2	○	21.1
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いている	76.5	72.7		3.8
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいる	94.1	77.2	○	16.9
今回の国語の問題について、文章で答える問題に最後まで書こうと努力した	64.7	77.7		13.0

【学力状況調査より】

○A問題では、「漢字を読んだり書いたりすること」については正答率にばらつきがあるが、漢字を読むことについては全国の正答率の平均にかなり近い。また、登場人物の相互関係を考えるなど「読むこと」については、全国の正答率を上回っている。B問題では、目的に応じて新聞の割り付けをすることや、目的に応じて中心となる語や文を捉えることはできている。

○A問題では、「作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取ることや、文の中における「主語」や「主語・述語」との照応の関係についてとらえること、さらに聞き方を工夫することも苦手である。B問題では、登場人物の気持ちを想像しながら「読む」ことや文章と図を関連づけて文章を書くこと、さらに自分の考えを書くことが苦手と言える。

【学習状況調査より】

○授業の内容がよく分かり、発表の時はうまく伝わるよう工夫し、文章の内容を理解しながら読んでいる、と回答する児童の割合は全国に比べて多い。昨年度以上に国語の学習に対する意欲が感じられるが、「国語が好き」・「国語の問題について、最後まで書こうと努力した」児童の割合が極端に低い。

【まとめ】

○今回の国語の学力・学習状況の結果を通して、普段の国語の学習については、意欲を持ち学習に臨む子どもたちの姿が見えてくるのであるが、関心や意欲が最後まで続かない姿も同時に見える。このことが今回の結果につながっていると思われる。今後の学習のあり方において、大きな課題と言える。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- 平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 69.1／泉佐野市 73.5／大阪府 74.8／全国 75.2）

「B区分問題」

- 平均正答数の全体的な分布状況は、全国に比べると中間・低位層に偏っている。
平均正答率（本校 33.0／泉佐野市 40.8／大阪府 44.1／全国 45.0）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>概ねできているもの、正答率が全国平均より高かったもの</p> <p>【数と計算】 ○計算をする 問2の(1)～(4) ・$28+72$: (100.0/98.2) ・$6.79-0.8$: (70.6/69.5) ・$5/9-1/4$: (82.4/81.4) ・$5/6\div 7$: (88.2/84.2)</p> <p>○少数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く 問1の(3) (94.1/82.0)</p> <p>【量と測定】 ○90° , 180° , 270° , 360° , を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ 問4の(1) (82.4/81.3)</p> <p>○分度器の目盛りを読み、180° より大きい角の大きさを求める。 問4の(2) (70.6/58.0)</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【図形】 ○円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の角の大きさを求める。 問5の(2) (35.3/64.5)</p> <p>○作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く 問6の(1) (52.9/75.4)</p> <p>○同上、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ 問6の(2) (47.1/67.6)</p> <p>【量と測定】 ○目的地までの所要時間から、決められた時間に到着するために家を出発する時刻を求める 問3 (52.9/74.8)</p>
算数B	特徴がみられた設問
<p>概ねできているもの、正答率が全国平均より高かったもの</p> <p>【図形】 ○平行四辺形を構成することができる、四辺の組み合わせを選ぶ 問1の1 (100.0/95.2)</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【数と計算】 ○目標に達するには、12月に3,000個のキャップを集めればよいわけを書く 問4の(3) (5.9/29.4)</p> <p>○四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く 問4の(1) (35.3/52.6)</p> <p>【図形】 ○合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、アの角が30° になるわけを書く 問3の(2) (29.4/49.1)</p> <p>○作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ 問1の(2) (35.3/54.6)</p> <p>【図形】・【量と測定】 ○示された図形の色がついた部分の面積を求める 問5の(2) (29.4/47.8)</p> <p>【量と測定】 ○トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選びそのときの代金を書く 問2の(1) (47.1/64.8)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好き	58.8	66.6		7.8
算数の勉強は大切だと思うか	94.1	93.1		1.0
算数の授業の内容はよく分かる	82.3	81.0		1.3
算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思うか	70.5	77.5		7.0
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える	88.2	79.6	◇	8.6
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	64.7	67.7		3.0
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか	100.0	90.3	◇	9.7
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える	76.4	79.1		2.7
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている	70.5	80.6		10.1
今回の算数の問題で、言葉や式などを使って解答する問題には、最後まで書こうと努力した	52.9	73.3		20.4

【学力状況調査より】

○A問題での基本的な四則計算については、概ねできていると判断する。全国の正答率とほぼ同じか、少し上回っている。また、「量と測定」の領域においても、分度器の扱い方、角度についても理解できている。B問題では、「図形」の領域で、平行四辺形の構成において、辺の組み合わせを選ぶことができている。また、示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由についても書けている。

○A問題では、二等辺三角形の性質から角度を求めること、直方体の見取り図と展開図から平面の長方形の長さを求める問いに、誤答が目立った。B問題は、全国の平均正答率を超えたのは1問だけであった。ただ、示された二つの図形の面積を求める、正三角形の性質から長さを求める、という各問いについては、全国平均に近い正答率であった。B問題での無解答率の総和は、全国の2倍近くあった。

【学習状況調査より】

○国語と同様、算数も「好き」と答える児童の割合は、全国の割合や昨年度の本校児童の割合よりも低い。しかし、「大切だと思う」「よく分かる」という回答は、全国よりわずかであるが多い。さらに「役に立つ」と考えている児童は100%である。意欲的に学習にとりくんでいる姿がうかがえるのであるが、「わけを理解するようにしている」児童や「問題を最後まで書こう」と努力した児童は、全国に比べてかなり少ない。

【まとめ】

○学習状況調査の傾向は国語と変わらない。「よく分かる」という児童も国語の項目と同じで、全国よりも肯定的な回答率は高い。しかし、この意識は正答率にはつながっていない。また、意欲は持つが長続きしないということは、B問題の無解答率が全国の結果や昨年度の本校児童よりもかなり高いことから分かる。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は上位層から下位層まで平均的に広がっている。下位層が多い。
平均正答率（本校 46.1 / 泉佐野市 53.6 / 大阪府 57.3 / 全国 60.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
<p>概ねできているもの、正答率が全国平均より高かったもの</p> <p>【B区分 生命】 ○メダカのおすとめすを見分けるための観察する部分を選ぶ 問2の(1) (82.4/78.0) ○顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ 問2の(4) (41.2/37.9) ○インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く 問2の(5) (52.9/44.2)</p> <p>【B区分 地球】 ○夕方にみられる月の形と場所を選ぶ 問4の(2) (58.8/56.1)</p>	<p>課題があると思われるもの、正答率が全国平均より低かったもの</p> <p>【A区分 エネルギー】 ○水の温まり方の予測を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ 問3の(2) (29.4/54.0) ○示された器具（メスシリンダー）の名称を書く 問3の(4) (17.6/70.7) ○メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ 問3の(5) (23.5/51.7)</p> <p>【B区分 地球】 ○水が水蒸気になる現象について、その名称を書く 問4の(5) (23.5/58.5) ○地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶ 問4の(6) (76.5/84.2)</p>

3. 学習状況調査より

質問項目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好き	52.9	83.5		30.6
理科の勉強は大切だと思う	94.1	86.9	◇	7.2
理科の授業の内容はよく分かる	94.1	87.9	◇	6.2
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある	64.7	86.9		22.2
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	76.5	74.5		2.0
観察や実験を行うことは好き	82.4	90.1		3.8
理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている	82.3	75.3	◇	7.0
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考える	70.6	80.4		9.8
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考える	64.7	67.1		2.4
今回の理科の問題で、答えを文章で書くところは最後まで努力した	70.6	76.1		5.5

【学力状況調査より】

○B区分の「生物」については、全国の正答率よりも高いものがみられた。また、B区分「地球」では、「夕方に見られる月の形と場所を選ぶことについての正答率は全国を上回り、「観察した星座や雲の動き」の正答率も全国に迫るものであった。

○A区分の「物資」および「エネルギー」での本校の正答率は、全国よりかなり低いものとなっている。その中でも特に「物質」の区分の実験器具やその使い方についての設問では、全国の正答率の半分にも及ばず、さらに、「エネルギー」の区分でも、「振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため条件を変えた振り子の中から適切なもの」を選び、この実験の結果に基づいた「振り子時計の時間の調節の仕方」を選ぶという設問での正答率の低さが目立った。

【学習状況調査より】

○理科の勉強が「大切で」・「役に立つ」と答える児童の割合は、全国よりもよい結果となっている。さらに、「理科の授業の内容はよく分かる」「実験や観察の計画を立てている」という回答も全国よりも高くなっている。しかし、「理科の勉強が好き」・「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」・「観察や実験から、どのようなことが分かったのか考える」という設問に対する回答は、全国の肯定的な回答率をかなり下回っている。

【まとめ】

○理科の学習は「よく分かり」「大切なもの」「役立つ」と考える児童の割合は、全国よりも多い。これは、国語や算数でも同様である。理科では、「自然の中で遊んだこと・観察したこと」「観察や実験を行うこと」についての設問もあったが、これらの割合については、全国よりも低い結果となっている。さらに、「実験や観察の結果」から考えることや、本学力調査に関して「文章で書くところは最後まで努力した」と答えた児童の割合は、全国よりも低いものとなっている。つまり、学習としての理科は、大切で将来は役に立つものと認識しているが、実験や観察の結果から考えを深めることが得意ではないと考える。そして、自然体験の少なさが、理科の学習に対する興味や関心の低さにつながっていると言える。

平成27年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものや、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校 回答率 / 全国 回答率 >
【家庭生活の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・親子関係は概ねよく、家庭での問題が学校に持ち込まれることはあまりない。 ・基本的な生活習慣(就寝・起床など)は、全国の回答率を上回っているものが多く、安定している。 ・保護者は学校行事への参加だけでなく、準備や片付けなどにも協力的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 <88.2/79.2> ○学習塾で勉強している。 <47.1/52.7> ○テレビなどを見るのは1日2時間未満。 <23.5/40.7> ○1日にスマホや携帯を使うのは30分以下 <64.7/72.0> ○保護者は学校行事に来るか。(よく来るという回答) <100.0/81.8>
【家庭学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題はきちんとできている児童が多いが、学習時間については、全国と比較してもかなり少ないと言える。 ・課題を自分で決めて学習する「自主学」は積極的に取り組んでいるが、時間が短いために充実した内容のものが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家で、学校の宿題をしている。 <100.0/96.8> ○家で、学校の授業の復習をしている。 <52.9/54.5> ○平日1日あたりの家での学習時間が1時間以上 <35.3/62.7> ○家で、自分で計画を立てて勉強している。 <64.7/62.8> ○新聞を読んでいるか。 <35.2/23.7>
【学校での学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での決まりは守れるが、学校生活が楽しいと答える児童はすこし少ない。 ・先生の指示することにはまじめに取り組むが、自分で課題を見つけることは苦手で、自分の考えや意見をみんなの前で発表することにためらいを感じる児童が多い。 ・学校での学習時は、私語もほとんどなく、学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に行くのは楽しい。 <82.3/87.0> ○学校での決まりを守っている。 <94.1/91.1> ○「総合的な学習の時間」で課題を立てて、情報を集め、調べたことの発表に取り組んでいるか。 <58.9/65.8> ○400字の原稿用紙2~3枚に文章を書くのは難しいと思うか。(「思わない」・「どちらかと言えば思わない」と答えた割合) <29.4/39.8> ○授業中分らないことは、先生に聞く。 <29.4/24.8>

本校の取組み

◎これまでの取組み

- ・校内研究は、「自分で考え解決する子どもの育成」をテーマに、今年度は国語を中心の教科として、研究にとりこんでいる。その中でも特に、「話す聞く活動を通して伝え合う力」を育むことに重点を置いている。
- ・昨年度に引き続き府教育センターの「授業改善校内研究ワーキング」に参加し、授業改善はもとより自主学習と家庭学習の充実についての保護者への提案も続けている。さらに、ワーキング参加に伴い学校支援も受けており、府教育センター指導主事より校内研究について指導を受けている。
- ・「まなびんぐ(放課後学習会)」は今年度も、3年生を対象に算数の補充学習を毎週月曜日の6時間目にあてている。参加率は70%である。
- ・今年度も「漢字検定」を6年生に実施(年2回の予定・1回目は実施済み)

◎これからの取組み

- ・上記の取組みについては、検証をふまえながら継続していく。
- ・新たなICT機器の活用(タブレット端末の活用)を通じて、授業改善と基礎学力の向上をめざす。
- ・全校児童対象に学習状況把握のためのアンケートを実施し、結果をもとに学力向上に向けた取り組みを計画、実施していく。

《よく分かる授業をめざして 一本校の学力・学習状況結果から》

- ・学習状況調査から、「授業の内容はよく分かる」と肯定的に捉えている割合が全国の平均よりも高くなっているが、このことが学力調査の正答率の高さにつながっていないことが判明した。そこで改めて、正答率にもつながる「よく分かる」授業について、以下の点を重視し指導にあたる。

【国語の指導に関して】

(読むこと)

- ・物語などの登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながら読むことの指導に重点を置く。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

- ・学年別漢字配当表に示された漢字を正しく書くことについては、繰り返し学習にとりくむ。

(書くこと)

- ・文章だけでなく、図やグラフなどの資料とも関連づけた書き方を授業に取り入れる。

(聞くこと・話すこと)

- ・話の内容に対して聞き方を工夫しようとする態度を育てる。

【算数の指導に関して】

(量と測定)

- ・日常生活の事象の解決にあたり、割合や単位量当たりの大きさを活用できるよう指導にあたる。

(図形)

- ・図形の性質について、作図や測定を通して理解を深める手立てとする。

(数量関係)

- ・示された情報から何を求める場面かを捉え、答えを導き出すための手立てを工夫する。
- ・問題の解決にあたっては、見通しを立てたことよさを実感できるようにする。

【理科の指導に関して】

- ・身近な自然現象に関しては、普段から児童と一緒に考える機会を意図的に持つ。
- ・自然や実物に触れる機会を増やしていく。
- ・実験に用いる器具について使用について、丁寧に指導していく。
- ・結果を見通して実験が構想できるよう、事前の指導や準備にあたる。